

## ♪「JAPC オンライン大忘年会 2020」に参加してみました♪

2020年12月19日（土）16：00 開演

参加者は、メイン会場の他それぞれに割り振られた交流会場2カ所へアクセスして交流

筆者は昨年8月、日暮里サニーホールで行われた「JAPC アコーディオン夏祭り2019」を聴きに行きました。大勢のアコ仲間が互いに演奏し合い楽しいひと時を過ごしていた様子を思い出します。コロナ禍でなければ恐らく今年の忘年会もたくさんのアコーディオン仲間でのぎやかに交流が出来たことでしょう。

その形式が叶わない今年は、お互いがインターネットでつながり、弾きあったりおしゃべりしたりの交流会となりました。年が改まっても一向に収まらないコロナ禍での交流の1つの形になるかもしれませんね。

オンラインでの交流会は初めてとのことで、本番数日前に1度、しっかりつながるか JAPC 事務局と双方向で接続状態の確認が行なわれました。そうして本番を迎えました。以下、本番の様子をざっと紹介します。

### ■開演 15分前からアクセス開始

まず、参加者は開始15分前からメイン会場へアクセスできたので自宅などから画面に顔をうつし出して開演を待ちます。

(〇〇さん久しぶり〜等のやり取りが聞こえます)参加者は30人程だったので、自宅のディスプレイに全員の姿を映し出すことは出来たのだと思うけれど、筆者も不慣れで常時10名ぐらいしか確認できない中で進行しました。

始めに主宰者(小川正浩代表)の「参加者が集まるのか危ぶまれましたが30数名が参加されました」と開催挨拶があり、続いて「JAPC オンライン大忘年会

2020 開始します、乾杯！」と画面に向かって乾杯！

演奏のときは聴く側はミュートにして音が入らないようにと注意があつてゲスト「巡〜MeguRee〜」の演奏です。曲は「ポール・ウナ・カベサ」「オリジナル曲1曲」「チャルダッシュ」でした。

「ポール・ウナ・カベサ」について、「男性が大好きな女性にアタックしたんだけど首の差で他の男に取られてしまうという悔しい悔しい曲です」と曲の紹介でした。(この曲はタンゴの名曲で、そういえば日本では「首の差で」と訳されていますね。:筆者)

また、「今年はいろいろと悔しいことがあったけれども、今日は思いっきり弾きあつて楽しんで、終わり良ければすべて良しです」とゲストから参加者へのメッセージでした。

メイン会場で開演の挨拶、乾杯、ゲスト演奏を聞いた後は、それぞれ前もって割り振られている URL の交流会場へと移動します。

### ■交流会場へ移動

1つのグループが5〜6人だったので、グループが6つ程あったと思いますが、そのうちの2つ、(1回目の交流会場の URL と2回目の交流会場の URL)が前日までにメールで届いていました。

つながらなかつたりわからなくなった場合はメイン会場のリンク先に戻ることで対応されていました。また、それもダメな場合のために緊急連絡先(電話)が用意されていました。

筆者が参加したグループの様子のみ

なるけれども、次にその一端を紹介いたします。

#### 1 回目の交流会 (午後 4 時 40 分開始)

このグループの進行役は佐藤将さんでした。グループのメンバーは、♪筆者 (バイエルピアノ教則本より 93) の他には、♪イケベアコーディオン教室の田代さん (異邦人)、♪東京アコーディオン研究会と東京バラライカアンサンブルに所属の村上さん (魅惑のワルツ)、♪ウィンドバスカーズの浅川さん【「Tanti Anni Prima (Ave Maria)」】、♪杜金風さん (スタイルミュゼット)、♪関東アコでもおなじみの萩本さん (今回は聴く側に)

※ ( ) 内は演奏曲。

#### 2 回目の交流会 (午後 5 時 30 分開始)

進行役はトンボ楽器製作所の大政光さんです。このグループのメンバーは、♪イケベアコーディオン教室のはたさん (使っている楽器はボタンアコとのことですが演奏はなかった)、♪筆者 (1 回目と同じ曲)、♪トンボ楽器アコーディオン教室講師松本みさこ先生と生徒さんとバスクラリネット奏者の玉置さん (山登りが好きなので、コロナが収束したらまた山登りをしたいと話していた生徒さんは「カルメン」を、「クレズマー」という民族音楽の勉強会で知り合った玉置さんはバスクラリネットで講師の松本先生とのアンサンブルで「ラトビーシュカ」を演奏) ※松本先生による曲の解説:「ラトビーシュカというリズムがありまして、宗教から始まったユダヤの音楽ですけど、この曲は 2010 年にできた曲ですごく新しいクレズマーです。ラトビーシュカっていうくらいなのでラトビアの国の人がつくった曲です。」、♪鍵盤堂専任アコーディオン調律師の太田さん (今年は演奏会がなかったのでこの機会にオーバーホ

ールをされる方が多いと話していました)

このグループでも、乾杯をしてから始まりました。演奏する方の合間におしゃべりがあり、進行役の大政さんは小学生のときにトランペットを使ったことがあるとか、あるいは小学校でコルネットをやっていたという方は、ピアノは中学までで、クラシックギターもちょっと習っていたけれど、アコーディオンが一番長く続けていると話していました。

交流会の途中、桑山さんもお邪魔しますと参加されて、進行役から残り時間 4 分しかないけれど何かと言われる中、ディズニーの「星に願いを」をボーカル (藤田朋子さん) と一緒に演奏され、飛び入り演奏にしばし聴き入りました。(参加者から: どこでもドアみたいだね) (進行役から: 素晴らしいクリスマスプレゼントでした) 等のコメントがあってグループ交流会は終了しました。

#### ■再びメイン会場へ

私が参加した以外のグループの様子はわからないので省略しますが、それぞれのグループでもう 1 度聴いてみたい演奏の投票が行われていて、票数の多かった順に 3 位までの発表がありました。1 位と 2 位が同数で (西野原いくみさんと千葉薫さん)、3 位も同数 (本田千香さんと杜金風さん) となって、用意された賞品が 3 点だったので千葉さんが辞退されましたが、これは代わりに何か考えるとのことでした。

賞品は、上位の方から西野原さんは“ソフトケース” (トンボ楽器製作所からの賞品) を、本田さんと杜さんは同率なのでじゃんけんをし、勝った杜さんは“背負いバンド” (池部楽器店からの賞品) を、本田さんは“クロマチックハーモニカ”

(谷口楽器店からの賞品)をそれぞれ選んでいました。

他、数名(箱の中に名前が書かれた札が入っていて、事務局が引き当てた名札)の方に、共催の谷口楽器店、イケベ楽器店、トンボ楽器製作所からの景品が渡されました。

この後、投票の多かった本田さんは「アコーディオンブギ」を杜さんは「スタイルミュゼット」を演奏。時間が押しきていたようで JAPC の小川正浩代表と事務局の置かれているトンボ楽器製作所真野社長とで「情熱大陸」を演奏して今年の弾き収めとなりました。

## ■終わりに

小川正浩代表あいさつ

「今年の忘年会は中止も考えたけれども、やっぱり皆さんとこうやってお会いする機会をつくりたいということで、初めてですけどこのような形で実施しました。」「各グループで様子は違っても皆さん楽しまれたということなので実施した甲斐がありました。来年は是非実際に会ってアコーディオンを弾きあいたい。

本日は3時間という長い間でしたが皆様お集まりいただきありがとうございました(拍手)」と参加者の大きな拍手で幕となりました。

(関東アコ広報部:記)



余白が出来たので演奏された曲の中の「ラトビーシュカ」について調べてみました。(地図はインターネット上、「始めてでもよく分かる



バルト三国旅行・ツアー」より転記)

バルト三国と言われる三つの中の真ん中の国「ラトビア」の音楽のようです。前・駐スウェーデン・ラトビア大使、ふじい・たけし氏の記述によると、ラトビアの音楽の特徴は天才的なほど音程がしっかりしていて、リズム感が素晴らしく、声が透明だとあります。

日本にも随分上陸していて、ラトビアは1991年に独立し、1993年に第22回歌と踊りの祭典が行われた際には北海道合唱団が参加していて、5年後の1998年に開かれた歌と踊りの祭典に早稲田大学グリークラブ OB でつくる稲門グリークラ

ブが参加しましたと書かれています。また祭りの様子についても4万人の大合唱がリーガ郊外の森に響き、各地から集まったダイナの合唱団がそれぞれ自慢の民族衣装に身を包みリーガ市内を大行進します。これは一見の価値があります。やはり自由は良いなと痛感します。と記されています。

.....

もう1つ、ラトビア関連で「百万本のバラ」についての記述がありました。出典は、うた声新聞に連載された「愛唱歌 世界めぐり **ロシア編**」「百万本のバラ」そのI、そのII。執筆者:山の内重美(歌手・俳優ロシア文化研究者)2010年3月1日。

作詞は有名な詩人のアンドレイ・ヴォズネSENSキイ。何度かお会いしたヴォズネSENSキイ自身から聞いたこの歌の誕生のいきさつは次のようなものだ。と「百万本のバラ」の誕生についての記事ですが、紙面の都合でこれは次号で紹介したいと思っています。